

中 学 校

平成 31 年度 (2019 年度)

# 教育研究員研究報告書

国 語

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究の仮説	2
IV	研究の方法	3
	1 調査研究	3
	2 授業検討・検証授業	3
	3 研究構想図	4
V	研究の内容	5
	〈指導事例1：第1学年〉	5
	〈指導事例2：第2学年〉	8
	〈指導事例3：第3学年〉	12
VI	研究のまとめ	16

## 研究主題

# 自分の考えが伝わる文章を書く力を育成する指導の工夫

## I 研究主題設定の理由

中学校学習指導要領解説国語編（平成 29 年 7 月）（以下、「解説」と表記。）では、「全ての領域において、自分の考えを形成する学習過程を重視し、『考えの形成』に関する指導事項を位置付けた」とあり、「考えの形成」は重要視されている力である。

また、「全国学力・学習状況調査等の結果によると、中学校では、伝えたい内容や自分の考えについて根拠を明確にして書いたり話したりすることや、複数の資料から適切な情報を得てそれらを比較したり関連付けたりすること、文章を読んで根拠の明確さや論理の展開、表現の仕方等について評価することに課題があることが明らかになっている」（解説）とある。

具体的には、「平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査」（文部科学省）の国語に関する調査（中学校第 3 学年対象）では、「自分が伝えたいことについて資料の中から根拠となる情報を取り出して正確に書くこと」はできている（平均正答率 78.0%）が、「自分が伝えたいことの根拠として読み手に分かりやすいように書くこと」に課題が認められた（平均正答率 58.2%）。また、「平成 30 年度全国学力・学習状況調査」（文部科学省）では、「伝えたい事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように書くこと」に課題が見られ（平均正答率 64.4%）、「平成 29 年度全国学力・学習状況調査」（文部科学省）では、「表現の仕方について捉え、自分の考えを書くこと」に課題が見られた（平均正答率 42.3%）。毎年のように、書くことにおける「考えの形成・記述」に課題が見られる。

これらのことから、「考えの形成・記述」に関する指導の充実が必要であり、指導事項の指導を改善・充実させることで、自分の考えが伝わる文章を書く力を身に付けさせることができると考えた。

そこで、本研究では、研究主題を「自分の考えが伝わる文章を書く力を育成する指導の工夫」とし、「書くこと」の領域で求められる指導の工夫について研究を行うこととした。

## II 研究の視点

本研究における「自分の考えが伝わる文章」とは、自分の考えの羅列ではなく、それを支える根拠を明確にしながら自分の考えが述べられている文章のことである。自分の考えが伝わる文章を書くためには、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認したり、書こうとする根拠が自分の考えを支えるものであるかどうかや、自分の考えが事実や事柄に対する適切な解釈から導き出されているかなど、根拠の適切さを考えたりすることが必要になる。また、意見と根拠を意識して書くことで、中心的な部分と付加的な部分との関係や事実と意見との関係を考えて書くといった効果的な表現の仕方も考えられるようになる。このような力を生徒一人一人に身に付けさせるための効果的な指導の工夫を示すことが、本研究の目指すところである。

そこで、本研究においては「解説」を踏まえ、生徒に身に付けさせたい力を、第 1 学年は「根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章を書く力」、第 2 学年は「根拠の適切さを

考えて説明や具体例を加えるなど、自分の考えが伝わる文章を書く力」、第3学年は「表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章を書く力」と設定した。

また、これらの力を育成するために、「考えの形成、記述」に関わる学習活動に「情報の扱い方に関する事項」を指導する学習活動を設定し、「書くこと」と「情報の扱い方に関する事項」を単元の中で関連させて指導していく（表1）。これは、自分のもつ情報を整理して、その関係を明確にすることが、文章で適切に表現することにつながるためである。

表1

学年	〔思考力・判断力・表現力等〕 B 書くこと 指導事項ウ 考えの形成、記述	〔知識及び技能〕 (2) 情報の扱い方に関する事項	
		情報と情報との関係	情報の整理
第1学年	根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。	原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。	比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。
第2学年	根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。	情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと。
第3学年	表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫すること。	具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めること。	情報の信頼性の確かめ方を理解し使うこと。

### Ⅲ 研究の仮説

本研究では、以下の3点の指導方法の工夫に取り組むことで、自分の考えが伝わる文章を書く力を身に付けさせることができると考える。

#### 1 書く内容について、多様な考え方ができる学習課題の設定の工夫

最も関連がある言語活動として、「中学校学習指導要領（平成29年告示）」（以下、「新学習指導要領」と表記。）の「B 書くこと」の「説明的な文章を書く言語活動」を指導方法の工夫の対象とする「根拠に基づき、自分の考えを述べること」に最も関連がある言語活動とした。実際に書く内容について、自分の考えを伝える必要性を生徒が感じられるようにしたいと考え、立場によって意見が分かれる問題や一つの結論に収れんされず、様々な結論を導くことができる話題について、自分の考えを書かせる課題を設定した。「新学習指導要領」に示された言語活動例及び学習課題は、表2のとおりである。

表2

学年	言語活動例	学習課題
第1学年	本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。	・調べたことを報告する文章を書く。
第2学年	多様な考えが可能な事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く活動。	・新聞に自分の意見を投書しよう。
第3学年	関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く活動。	・広告を批評しよう。

#### 2 「情報と情報との関係」を理解させる学習の設定

本研究は、「自分の考えが伝わる文章を書く力の育成」を目指している。自分の考えが伝わる文章とは、「根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章」（第1学年）、「根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたりするなど、自分の考えが伝わる文章」（第2学年）、「表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章」（第3学年）を書く力である。自分の考えが伝わる文章を書くためには、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認したり、根拠の適切さを考えたり、考えや根拠を具体的に記述したり、自分の考えの根拠としてふさわしいのかどうかについて検討したり

する必要がある。そこで、自分の考えを示す意見を裏付けるためのより適切な根拠の在り方を考える手だてとして、意見と根拠、具体と抽象など、情報と情報との関係について十分に理解させることが有効で、根拠や表現の適切さを考えさせるために必要であると考えた。

### 3 根拠や表現の仕方の適切さを考えさせる活動の設定

本研究で各学年が目指す文章を書くためには、意見と根拠の関係を整理してから書く必要がある。そこで、情報の整理について理解したことを活用して、「記述メモ」を作成させる。

「記述メモ」は、情報と情報との関係が明確にできるように、思考の流れを可視化させる点において工夫した。ピラミッド型に図式化した「記述メモ」を用いたり、矢印等の記号で結び付けたりして、思考の整理に役立てることができるよう試みた。表3は、「Ⅲ 研究仮説」2と3で示した「単元構成の工夫」をまとめたものである。

表3

第1次で学習した情報の整理の仕方を第2次で書くことに生かす単元構成の工夫		
第1次	ねらい	「情報の整理の仕方」についての知識及び技能を理解させる。
	学習活動	文章を読んで情報を取り出し、その関係を整理する。
第2次	ねらい	第1次の学習内容を踏まえ、「記述メモ」を作成し、各学習課題に沿って、自分の考えが伝わる文章を作成させる。
	学習活動	「情報と情報との関係」を意識し、根拠の明確な文章を書く。

—仮説—

自分の考えを伝える必要性を生徒が実感できる学習課題を設定し、原因と結果、意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解させた上で「記述メモ」を書かせ、メモを基に自分の考えと根拠の一貫性や効果的な表現の仕方を考えさせることで、自分の考えが伝わる文章を書く力を身に付けさせることができるであろう。

## IV 研究の方法

### 1 調査研究

平成29年度から平成31年度（令和元年度）までの「全国学力・学習状況調査」（文部科学省）の国語に関する調査（中学校第3学年対象）等の調査結果を分析し、東京都の中学生の国語の課題を明らかにする。

### 2 授業検討・検証授業

研究の視点に基づき、単元の学習において、以下のような指導の工夫を行うことで、「自分の考えが伝わる文章を書く力」の育成を図る。

- (1) 学習課題を工夫する。
- (2) 単元の中に情報と情報との関係を理解させる学習活動（第1次）を基に、自分の考えを具体化・明確化させる「記述メモ」を作成させ、根拠や表現の仕方の適切さを考えさせる学習活動（第2次）を設定する。

このような単元による検証授業を実施し、ワークシートに生徒が記述した内容や書いた文章を基に、以下の観点から成果と課題を考察することによって仮説を検証する（表4）。

表4

第1学年	複数の事例や専門的な立場からの知見を引用するなどして根拠を明確にして自分の考えが伝わる文章を書けているか。
第2学年	根拠が確かな事実や事柄に基づいたものであるかを考えて説明や具体例を加えたりするなど、自分の考えが伝わる文章を書けているか。
第3学年	目的や意図、題材などに合わせて、表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章を書けているか。

### 3 研究構想図

**【中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月） 国語 目標】**

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

**【生徒の実態】**

- ・「平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査」（文部科学省）  
伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く。(78.0%)  
そのうち、自分の考えも加えて書いている。(58.2%)
- ・「平成 30 年度 全国学力・学習状況調査」（文部科学省）  
伝えたい事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように書く。(64.4%)
- ・「平成 29 年度 全国学力・学習状況調査」（文部科学省）  
表現の仕方について捉え、自分の考えを書く。(42.3%)

**【指導の実態】**

- ・文章を書く前に、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを生徒に確かめさせる指導が不十分
- ・理由と具体例に一貫性があるかや、自分の考えが十分伝わっているかを検討させる指導が不十分

**【身に付けさせたい力】**

第 1 学年…根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章を書く力  
第 2 学年…根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたりするなど、自分の考えが伝わる文章を書く力  
第 3 学年…表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章を書く力

**研究主題** 自分の考えが伝わる文章を書く力を育成する指導の工夫

**一仮説一**

自分の考えを伝える必要性を生徒が実感できる学習課題を設定し、原因と結果、意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解させた上で「記述メモ」を書かせ、メモを基に自分の考えと根拠の一貫性や効果的な表現の仕方を考えさせることで、自分の考えが伝わる文章を書く力を身に付けることができるであろう。

**【研究の視点】**

- ①学習課題の工夫  
自分の考えを伝える必要性を実感できる学習課題を設定する。
- ②「情報と情報との関係」を理解させる学習の設定（第 1 次）  
教科書教材や新聞等を活用し、原因と結果、意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解させる学習を設定する。
- ③根拠や表現の仕方の適切さを考えさせる活動の設定（第 2 次）  
原因と結果、意見と根拠、具体と抽象など、情報と情報との関係に着目して、自分の考えと自分の考えに対する根拠を明確にさせる記述メモを作成させる。それを基に自分の考えと根拠・具体例の一貫性や効果的な表現の仕方を検討させる。

**【研究の成果と課題】**

検証授業を行った後、ワークシートに生徒が記述した内容や書いた文章を基に、以下の観点から成果と課題を考察することによって仮説を検証する。

第 1 学年…複数の事例や専門的な立場からの知見を引用するなどして根拠を明確にして自分の考えが伝わる文章を書けているか。

第 2 学年…根拠が確かな事実や事柄に基づいたものであるかを考えて説明や具体例を加えたりするなど、自分の考えが伝わる文章を書けているか。

第 3 学年…目的や意図、題材などに合わせて、表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章を書けているか。

**研究で主に扱う指導事項（「中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月）」）**

〔知識及び技能〕情報の扱い方に関する事項 ア・イ（第 1 学年～第 3 学年）  
〔思考力、判断力、表現力等〕書くこと ウ（第 1 学年～第 3 学年）

## V 研究の内容

### 〈指導事例1：第1学年〉 根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章を書く力を育成する指導の事例

#### 1 単元名

調べたことを報告する文章を書こう～根拠を明確にして自分の考えが伝わる文章を書く～

#### 2 単元の目標

自分の考えが明確になるように、根拠の示し方を工夫して文章を書くことができる。

#### 3 評価規準

##### 【国語への関心・意欲・態度】

- ・粘り強く自分の考えが明確になるように根拠の示し方を工夫し、学習の見通しをもって自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。

##### 【書く能力】

- ・「書くこと」において根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。  
(〔思考力・判断力・表現力等〕B書くこと(1)ウ)

##### 【言語についての知識・理解・技能】

- ・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。  
(〔知識及び技能〕(2)ア)
- ・情報の整理の仕方について理解を深め、それらを使っている。  
(〔知識及び技能〕(2)イ)

#### 4 教材

- ・環境省「熱中症環境保健マニュアル」
- ・保健体育科の教科書「新中学保健体育」(学研)
- ・ワークシート

#### 5 主な学習活動

##### (1) 単元の展開(全5時間)

		学習活動	指導上の留意点
第1次	第1時	○ 単元の学習の見通しをもつ。 ○ 情報と情報との関係について理解し、整理の仕方を学ぶ。	・ 単元の学習目標及び学習課題を理解させる。 ・ 情報と情報との関係を表す語句とともに、情報の表し方も理解させる。
	第2時	○ 課題を提示する。 ○ 課題に関する資料を読み、必要な情報を集める。	・ 報告する相手(部活動の仲間、友人、家族等)を選び、次時で情報を整理することを踏まえて箇条書きで情報を書き出させる。
第2次	第3時	○ 課題に対する意見と、それを支える根拠を書く。	・ ワークシート(P.8)を活用して、効果的な熱中症対策に対する根拠を検討させる。
	第4時	○ ワークシートに整理した内容を読み直し、文章の構成を考える。 ○ レポートを書く。	・ 第3時のワークシートに書く順序を書き込ませ、文章の構成を考えさせる。
	第5時	○ 書いたレポートを読み合い、相互評価をする。 ○ 単元の学習を振り返る。	・ レポートを読んだときに意見、根拠に筋が通り、書き手の考えが伝わる文章になっているかを相互に確認させる。

## (2) 指導の展開例

### 第1時

学習活動	指導上の留意点	○評価規準〔評価方法〕
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の目標及び学習課題を把握する。</li> <li>○ 情報と情報との関係や整理の仕方について学ぶ。</li> <li>○ 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の考えが明確になるように、根拠の示し方を工夫して文章を書くために資料を読み、レポートを書くという学習課題に取り組むことを理解させる。</li> <li>・ ワークシートを活用し、意見、根拠、原因、結果という情報と情報との関係を表す言葉について例題を解決しながら理解する。</li> <li>・ ワークシート最後の振り返り欄を活用し、情報の整理の仕方や情報と情報との関係について確認させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 原因と結果、意見と根拠情報と情報との関係や整理の仕方について理解している。〔ワークシート〕</li> </ul>

### 第2時

学習活動	指導上の留意点	○評価規準〔評価方法〕
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習の見通しをもつ。</li> <li>○ 資料を読み、必要な情報を書き出す。</li> <li>○ 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時のワークシートに整理した情報を基にレポートを書くことを理解させる。</li> <li>・ 目的と相手を踏まえ、情報を集めることを理解させる。</li> <li>・ 次時のまとめる作業に活用できるように、箇条書きでまとめさせる。</li> <li>・ 本時で集めた情報を整理するという次時の見通しをもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 情報の整理の仕方について理解を深め、それらを活用している。〔ワークシート・観察〕</li> </ul>

### 第3時

学習活動	指導上の留意点	○評価規準〔評価方法〕
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習の見通しをもつ。</li> <li>○ 課題に対する自分の考えと、それを支える根拠を書く。</li> <li>○ グループになり、自分の考えを支える根拠が明確か、相互確認をする。</li> <li>○ 意見交換後のワークシートを見直し、加筆・修正を行う。</li> <li>○ 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時までに学習した内容を振り返り、文章作成とのつながりを意識させる。</li> <li>・ レポートの読み手(友人、家族等)を意識して書くことを再度確認させる。</li> <li>・ 自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものになっているかを互いに確認させる。</li> <li>・ 自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものとなっているかを互いに確認させる。</li> <li>・ グループでの活動を踏まえ、改善させる。</li> <li>・ 次時では、レポートの構成を考え、実際に書くことを予告する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 粘り強く自分の考えが明確になるように工夫し、学習の見通しをもって自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。〔ワークシート〕</li> </ul>

### 第4時

学習活動	指導上の留意点	○評価規準〔評価方法〕
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習の見通しをもつ。</li> <li>○ レポートの構成を考える。</li> <li>○ レポートを書く。</li> <li>○ 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題に関する資料を読み、必要な情報を集めることを理解させる。</li> <li>・ 前時に整理した情報を基に、書く順序等を検討し、レポートを書く準備をさせる。</li> <li>・ 考えた構成に従って、レポートを書かせる。</li> <li>・ 自分の書いたレポートの根拠の明確さについて確認させ、書いたレポートを読みあうという次時の見通しをもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。〔レポート〕</li> </ul>

## 第5時

学習活動	指導上の留意点	○評価規準〔評価方法〕
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習の見通しをもつ。</li> <li>○ レポートを読み合い、相互評価をする。</li> <li>○ 単元の学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書いたレポートを読み合い、相互評価することを理解させる。</li> <li>・ レポートの根拠の明確さを評価の観点とし、レポートを読み合わせる。</li> <li>・ 本単元の学習を通して自分ができるようになったことや、学習したことを今後どのように活用したいかをまとめさせ、数名に発表させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。〔ワークシート〕</li> </ul>

## 6 検証授業の成果と課題

### (1) 成果

#### ア 学習課題の工夫

本單元では、必要な熱中症対策について知らせるために、友人や家族などの身近な人に向けて資料から文章を引用して説明したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書くという学習課題を設定した。全員の生徒が【生徒による活動の例】のような「記述メモ」を作成し、「記述メモ」に基づいてレポートを作成することができた。今回の学習課題が誰にでも身近に起こりうる問題で、報告する相手を選んだことで伝えるべき内容が明確になり、相手にとって役に立つ情報を伝える必要性を生徒が実感できたためであると考えられる。

#### イ 「情報と情報との関係」を理解させる活動の設定

実際の文章を基に原因と結果、意見と根拠を読み取ることで、資料から自分の意見の根拠となる事柄を意識して読むことができた。また、資料から自分の意見の根拠となる事柄を明確にしてレポートを書くことができた。

#### ウ 根拠や表現の仕方の適切さを考えさせる活動の設定

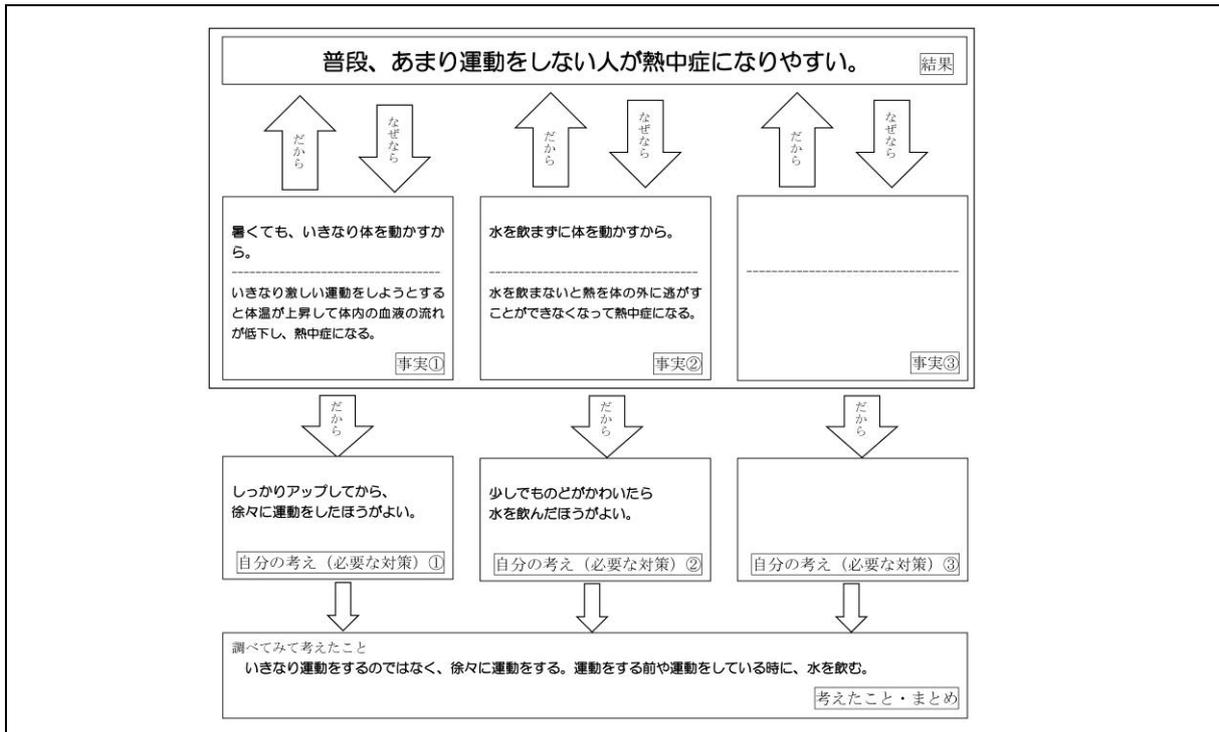
本時では「記述メモ」を作成し、意見に対する根拠を明確化させた。レポート作成時には、約6割の生徒が「『記述メモ』を活用し根拠を明確にしてレポートを作成することができた」と回答している。意見と根拠を「だから」、「なぜなら」でつなぎ可視化されたことで、根拠を明確にしようとしたことがうかがえる。

### (2) 課題

今回は熱中症の対策についてレポートを書くという課題であったが、日々の生活の中で「水分補給」などの対策について指導されて知っていることが多かった。対象者が誰でも似たような対策が挙げられることも多く、自分の考えに対する根拠の確かめ方については引き続き指導が必要である。

【生徒による活動の例】

第3時で使用したワークシートの一部（「熱中症対策」）



〈指導事例2：第2学年〉 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたりするなど、自分の考えが伝わる文章を書く力を育成する指導の事例

- 1 単元名 多様な考えができる事柄について、自分の考えを書こう  
～説明や具体例を加え、自分の考えが伝わる文章を書く～
- 2 単元の目標  
自分の考えが伝わるように、適切な根拠を示して文章を書くことができる。
- 3 評価規準
  - 【国語への関心・意欲・態度】
  - ・すすんで根拠の適切さを考えて説明や具体例を加え、学習課題に沿って自分の考えを書こうとしている。
  - 【書く能力】
  - ・根拠の適切さを考えて説明や具体例を加え、自分の考えが伝わる文章を書いている。  
(〔思考力・判断力・表現力等〕B書くこと(1)ウ)
  - 【言語についての知識・理解・技能】
  - ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。  
(〔知識及び技能〕(2)ア)
  - ・情報と情報との関係の様々な表し方を理解し、使っている。(〔知識及び技能〕(2)イ)
- 4 教材
  - ・新聞に掲載された文章
  - ・ワークシート

## 5 主な学習活動

### (1) 単元の展開 (全6時間)

		学習活動	指導上の留意点
第1次	第1時	○ 単元の学習の見直しをもつ。 ○ 情報と情報との関係について理解し、整理の仕方を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の学習目標及び学習課題を理解させる。</li> <li>情報と情報との関係を表す語句とともに、情報の表し方も理解させる。</li> </ul>
	第2時	○ 実際の新聞記事を活用して、文章を分析し、文章の内容をワークシートにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見と根拠、具体と抽象など、情報と情報との関係を意識させながら、第1時で学習した図にまとめさせる。</li> </ul>
第2次	第3時	○ 複数の投書を読み、自分が書きたいテーマを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の投書を読み、内容を紹介し合う。</li> <li>自分のテーマを決める。</li> </ul>
	第4時	○ テーマを決め、自分の意見と、それを支える根拠を挙げ、記述メモをつくる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の意見と、それを支える根拠、具体例のつながりが適切かどうかを考えさせ、相互確認をさせる。</li> </ul>
	第5時	○ ワークシートに整理した内容を読み直し、文章の構成を考える。 ○ 考えた文章の構成に沿って、投書を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3時のワークシートに、反対意見や、書く順序などを書き込ませ、文章の構成を考えさせる。</li> </ul>
	第6時	○ 書いた投書を読み合い、相互評価をする。 ○ 単元の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>投書を読んだときに意見、それを支える根拠、具体例の筋が通り、その人の考えが伝わる文章になっているかを相互に確認させる。</li> </ul>

### (2) 指導の展開例

#### 第1時

学習活動	指導上の留意点	○評価規準〔評価方法〕
<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の目標、及び本時の目標と学習課題を把握する。</li> <li>情報と情報との関係を表す言葉を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終目標が新聞への投書であることを伝え、より説得力のある文章を書くために情報を整理し、活用することを伝える。</li> <li>分類、原因と結果、意見と根拠、抽象と具体について、簡単な例を出しながら理解させる。</li> <li>意見と根拠が、抽象と具体の関係性になっていることを理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。〔ワークシート〕</li> </ul>

#### 第2時

学習活動	指導上の留意点	○評価規準〔評価方法〕
<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習の見直しをもつ。</li> <li>新聞の投書を読む。</li> <li>必要と主張する立場、不要と主張する立場の投書をそれぞれ意見、根拠、根拠に関連する具体的な出来事や事実を読み分け、ワークシートに整理する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報と情報との関係という観点から投書を整理させ、文章を構成する要素を確認する。</li> <li>意見が分かれる内容を基に、根拠や根拠に関連する出来事や事実による意見の違いを意識させる。</li> <li>ワークシートに整理させ、意見、根拠、根拠に関連する具体的な出来事や事実ことを理解させる。</li> <li>意見とのつながりを意識させるために、根拠と根拠に関連する出来事や事実を分けて整理させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報と情報との関係の様々な表し方を理解し、使っている〔ワークシート〕</li> </ul>

### 第3時

学習活動	指導上の留意点	○評価規準〔評価方法〕
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習の見通しをもつ。</li> <li>○ 投書を読み、内容を紹介し合う。</li> <li>○ 班で投書の内容を分類する。</li> <li>○ 自分の主張したいテーマを決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 投書に適したテーマ、読者が納得する投書について考えさせる。</li> <li>・ 生徒にも考えやすい社会的なテーマのものを一人2～3本担当する。</li> <li>・ 分類することで様々な分野を想起させ、テーマ決定の参考にさせる。</li> <li>・ 投書の特徴を踏まえ、社会に向けて発信したいことを取り上げさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し、使っている。〔ワークシート〕</li> </ul>

### 第4時

学習活動	指導上の留意点	○評価規準〔評価方法〕
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習の見通しをもつ。</li> <li>○ テーマについて、記述メモを作成する。</li> <li>○ グループで一人ずつ自分のテーマを紹介し、意見に対する根拠が適切か、相互確認をする。</li> <li>○ ワークシートを見直し、加筆・修正する。</li> <li>○ 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時までのワークシートを基に、情報と情報との関係を振り返らせ、文章作成とのつながりを意識させる。</li> <li>・ 自分の意見を決め、それを支える根拠を二つ以上挙げさせ、根拠と関連する事実や事柄を書かせる。</li> <li>・ 根拠と根拠と関連する事実や事柄が、意見を支えるものになっているかを相互に確認させる。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①根拠が確かな事実や事柄に基づいたものであるか。</li> <li>②意見が事実や事柄に対する適当な解釈から導き出されているか。</li> </ul> </li> <li>・ 自分で助言できない生徒には、教師が助言する。</li> <li>・ 次時では、投書の構成を考え、実際に書いていくことを予告する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ すすんで根拠の適切さを考えて説明や具体例を加え、学習課題に沿って自分の考えを書こうとしている。〔ワークシート〕</li> </ul>

### 第5時

学習活動	指導上の留意点	○評価規準〔評価方法〕
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習の見通しをもつ。</li> <li>○ 前時で書いた記述メモを見直し、構成を考え、投書を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時までに読んだ投書を思い出させ、どのように構成するのが効果的か考えさせる。</li> <li>・ 反論も想定させ、記述メモに接続詞や書く順序を書き加えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加え、自分の考えが伝わる文章を書いている。〔ワークシート〕</li> </ul>

### 第6時

学習活動	指導上の留意点	○評価規準〔評価方法〕
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習の見通しをもつ。</li> <li>○ 投書をグループで読み、相互評価を行う。</li> <li>○ 単元の学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 投書を読み合い、根拠と、根拠と関連する事実や事柄が、意見を支えるものになっているかを評価させる。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①根拠が確かな事実や事柄に基づいたものであるか。</li> <li>②意見が、事実や事柄に対する適当な解釈から導き出されているか。</li> </ul> </li> <li>・ 本単元の学習を通して自分ができるようになったことや、学習したことを今後どのように活用したいかをまとめさせ、数名に発表させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。〔ワークシート〕</li> </ul>

## (1) 成果

### ア 学習課題の工夫

共通のテーマではなく、多様な考えができる事柄について生徒一人一人がテーマを設定し、自分の考えを書き、投書するという学習課題を設定した。そのため、約8割の生

徒が、【生徒による活動の例】のように自分の意見を支える根拠や、根拠に関連する具体的な出来事や事実を書くことができた。

イ 「情報と情報との関係」を理解させる学習活動の設定

第一次に意見と根拠、抽象と具体の関係を理解させる学習活動を設定したことによって、根拠に確かな事実やイメージを共有できる具体的な内容を加えることが必要であるという意識をもたせることができ、記述メモを具体化する際に役立った。

ウ 根拠や表現の仕方の適切さを考えさせる活動の設定

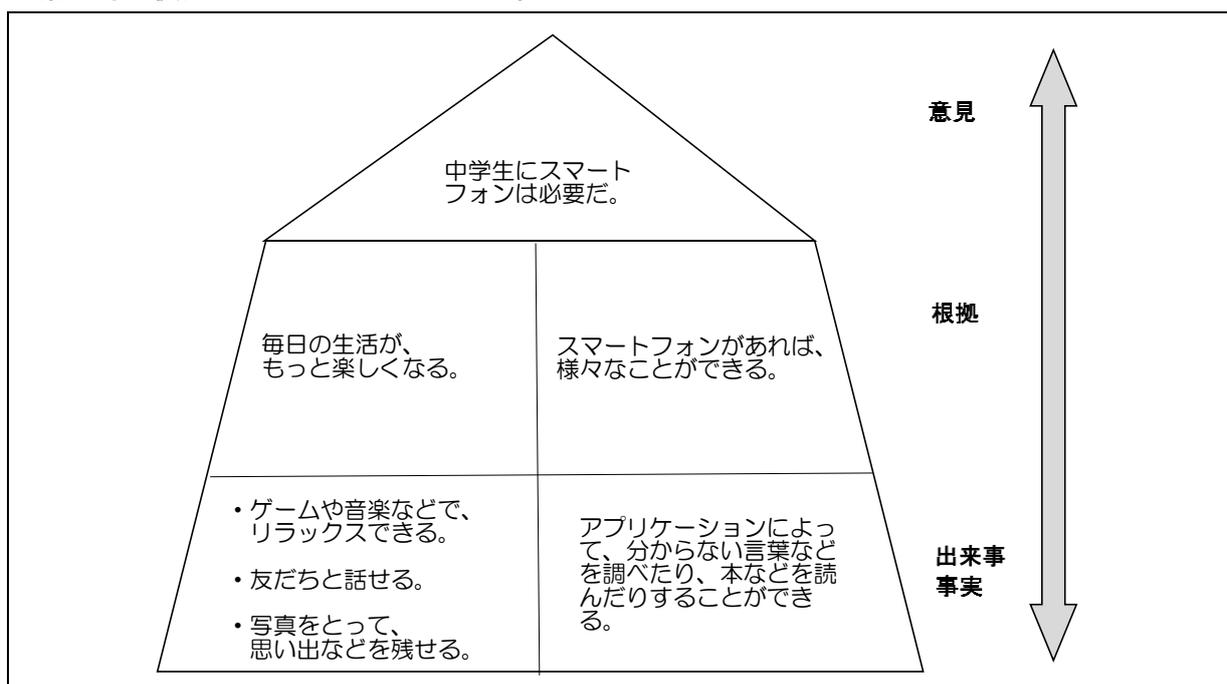
「記述メモ」は、意見と根拠、根拠に関連する具体的な出来事や事実の中心となる部分だけが構造的に書かれているため、根拠として適切か、根拠に関連する出来事や事実としてふさわしいかなどを助言しやすかった。グループの交流では、「この具体例はイメージできる。分かりやすい。」「『便利』って、例えばどういうこと？」などのように、「記述メモ」で学習したことを生かして助言する生徒が多かった。

(2) 課題

「記述メモ」を作成することができても、「文章」にするには、別の手だてが必要であった。生徒の感想には『『何を書くか』は分かるようになったが、順番や構成はあまり自信がない。』、「根拠を書くことやつながりを作るのが難しい。」とあり、意見、根拠、根拠に関連する具体的な出来事や事実という言葉だけを理解しても、それらを基に「説明や具体例を加えたり」しながら文章を書くことにつながらない生徒もいた。根拠の適切さを意識させるワークシートや、文章を教材に根拠の適切さを考えさせる学習も取り入れ、文章に書き表すまでの手だてを改善することで、自分の考えが伝わる文章を書く力を育成できると考える。

【生徒による活動の例】

第4時で使用したワークシートの一部



〈指導事例3：第3学年〉 表現の仕方を工夫したり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章を書く力を育成する指導の事例

1 単元名 広告を批評しよう

～表現の仕方や資料の引用の仕方を工夫し、自分の考えが分かりやすく伝わる文章を書く～

2 単元の目標

表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。

3 評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

- ・進んで表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、学習課題に沿って、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している。

【書く能力】

- ・表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している。〔思考力・判断力・表現力等〕B書くこと(1)ウ)

【言語についての知識・理解・技能】

- ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。  
(〔知識及び技能〕(2)ア)
- ・情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。  
(〔知識及び技能〕(2)イ)

4 教材

- ・「2019年度 読書週間ポスター」(公益社団法人読書推進運動協議会)
- ・布川角左衛門(1980)「読書週間十年の回想」読書推進運動協議会編『読書推進運動の二十年』
- ・ワークシート

5 主な学習活動

(1) 単元の展開(全4時間)

		学習活動	指導上の留意点
第1次	第1時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の学習の見通しをもつ。</li> <li>○ 情報と情報との関係について理解し、広告について分析をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元の学習目標及び学習課題を理解させる。</li> <li>・ 情報と情報との関係を意識して観点を立てて分析した事柄を記述メモに書き出させる。</li> </ul>
第2次	第2時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「2019年度 読書週間ポスター」について観点を立てて分析し、「記述メモ」を作る。</li> <li>○ 「記述メモ」を基に文章の構成を考え、広告を批評する文章の下書きをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自ら観点を立て、分析した事柄を「記述メモ」に書きださせる。</li> <li>・ 「記述メモ」を用いて、中心的な部分と付加的な部分を意識するなど表現の仕方を考え、下書きをする。</li> </ul>
	第3時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 互いに読み合い、表現の仕方や資料の適切な引用の仕方という観点からよくできている点や改善が必要な点等を伝え合う。</li> <li>○ 清書をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下書きの交流を通し、表現の仕方を工夫できているか、資料を適切に引用できているかなどを検討し、清書する。</li> </ul>
	第4時	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読み合い、相互評価を行う。</li> <li>○ 単元の学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 批評文を読み、表現の仕方を工夫できているか、資料を適切に引用できているかなどの改善点を相互評価する。</li> </ul>

## (2) 指導の展開例

### 第1時

学習活動	指導上の留意点	○評価規準〔評価方法〕
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の目標及び学習課題を把握する。</li> <li>○ 情報と情報との関係について理解し、ポスターについて分析する。</li> <li>○ 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の考えが分かりやすく伝わる文章を書くために、表現の仕方を工夫したり資料を適切に引用したりするなどの工夫をして批評文を書くという学習課題に取り組むことを理解させる。</li> <li>・ ワークシートを活用し、情報と情報との関係を確認し、それに沿って分析した事柄を記述メモにまとめさせる。</li> <li>・ 情報の整理の仕方や、情報と情報との関係について確認させ、次時は下書きを書くことを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 具体と情報など情報と情報との関係について理解を深めている。〔ワークシート〕</li> </ul>

### 第2時

学習活動	指導上の留意点	○評価規準〔評価方法〕
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習の見通しをもつ。</li> <li>○ 「記述メモ」を基に文章の構成を考え、下書きをする。</li> <li>○ 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時のワークシートを基に文章を構成し、下書きをすることを理解させる。</li> <li>・ 「記述メモ」を用い、中心的な部分と付加的な部分を意識しながら、内容を構成する。</li> <li>・ 「記述メモ」の内容を、中心的な部分と付加的な部分との関係などを意識して構成しているかを確認させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 進んで表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、学習課題に沿って、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している。〔ワークシート〕</li> </ul>

### 第3時

学習活動	指導上の留意点	○評価規準〔評価方法〕
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習の見通しをもつ。</li> <li>○ 下書きの交流を行う。</li> <li>○ 交流を通し、下書きを検討し、清書をする。</li> <li>○ 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時で書いた下書きを交流し、批評文を修正することを理解させる。</li> <li>・ 目的や意図、題材などに合わせて、表現の仕方や、資料を適切に引用しているかなどを伝え合う。</li> <li>・ 交流を踏まえて清書を行えたかを確認し、次時は清書を交流することを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現の仕方を考えたり、資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している。〔ワークシート〕</li> </ul>

### 第4時

学習活動	指導上の留意点	○評価規準〔評価方法〕
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時の学習の見通しをもつ。</li> <li>○ 相互評価を行う。</li> <li>○ 単元の学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 清書を読み合い、相互評価することを理解させる。</li> <li>・ 自分の考えが分かりやすく伝わる文章が書けているか、次の観点で相互評価する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①表現の仕方を工夫している。</li> <li>②資料を適切に引用している。</li> </ul> </li> <li>・ 本単元の学習を通して、どのような表現の工夫ができたか、どのように資料を引用できたかなどを振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 情報の信頼性の確かめ方を理解し、使っている。〔ワークシート〕</li> </ul>

## 6 検証授業の成果と課題

### (1) 成果

#### ア 学習課題の工夫

日常生活の中で触れる機会が多く、作成者の意図を考えやすい広告という題材について、特性や価値などについて論じたり評価したりするという学習課題を設定した。学習課題とした「読書週間」のポスターは、作成者が読書の啓発を意図して作ったものであるが、キャッチコピーや図、写真で直接的に表現しているわけではないため、読み手が様々な考えをもつことができる。そのため、【生徒による活動の例】のように、生徒が受ける印象も様々なものとなり、一つの課題でありながら、多様な根拠に基づいて自らの考えを述べることができた。

#### イ 「情報と情報との関係」を理解させる学習活動の設定

自分の考えを整理する際に、具体や抽象などの「情報と情報との関係」を理解していると、文章を構成する段階で中心的な部分と付加的な部分との関係を捉えて文章を書くことができた。また、伝えたい内容との関連で必要な情報かどうかを考えることができ、自分の考えの根拠や表現の適切さを振り返る際の観点としても活用することができた。

#### ウ 根拠や表現の仕方を考えさせる活動の設定

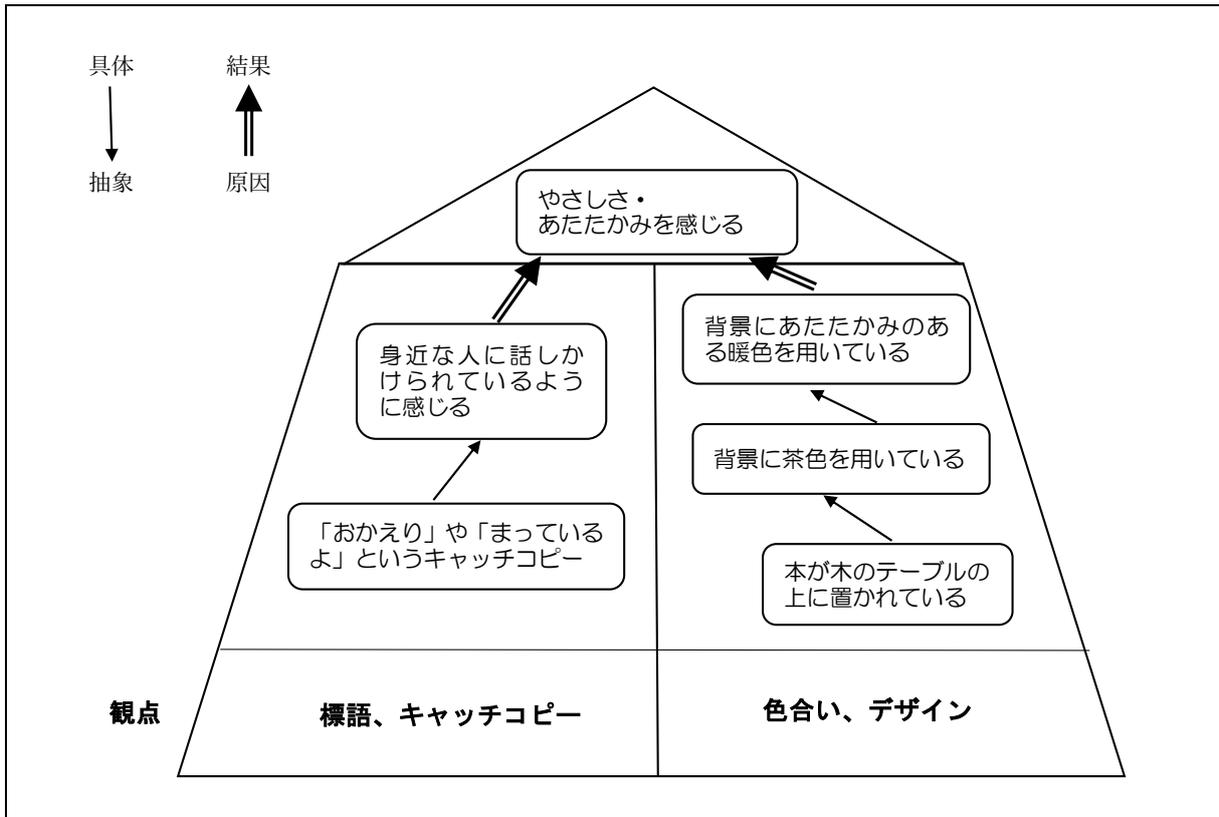
「記述メモ」を用いることで、生徒は自分が伝えたい内容がより明確にすることができた。また、自分の考えがどのような根拠や具体的な事柄から導かれたのかが思考の流れで確認することができ、分かりやすく伝わる文章にするために、表現の仕方や資料の適切な引用について確認しながら文章を書くことができた。

### (2) 課題

自分の考えを伝える必要性を実感できる学習課題が限られていることや、生徒によっては今回の「記述メモ」ではない形式のほうが書きやすいという意見もあった。特に、「情報と情報との関係」を整理する際に、自分の考えをどのような情報と捉えるのかに時間がかかった。また、「記述メモ」を用いて文章を書く際に文章の構成を考えさせることに時間をかける必要があった。「情報と情報との関係」を理解させる活動や、自分の考えを筋道立てて構成する際に、段落と段落の関係につながりについて考える活動も必要である。

【生徒による活動の例】

第2時で使用したワークシートの一部



## VI 研究のまとめ

本研究では、「自分の考えが伝わる文章を書く力を育成する指導の工夫」を研究主題とし、仮説に基づき検証を行った。以下、研究の成果と課題をまとめる。

### 1 研究の成果

#### (1) 学習課題の工夫

学習課題を工夫することで、自分の考えが伝わる文章を書くために、意見と根拠、根拠に関連する具体的な出来事や事実について、文章や自らの経験等を基に考え、根拠を明確にすることや適切な根拠を考える姿が見られた。

#### (2) 「情報と情報との関係」を理解させる活動の設定

原因と結果、意見と根拠、具体と抽象など「情報と情報との関係」について理解させることで、資料から自分の意見の根拠となる事柄を意識して読むことができた。意見に対して根拠が必要であることに気付き、情報と情報との関係を基に、より適切な根拠を考えようとする姿が見られた。また、抽象的な印象を具体的な気付きに掘り下げ、細かい分析をする際の手がかりに生かす姿も見られた。

#### (3) 根拠や表現の仕方の適切さを考えさせる活動の設定

「記述メモ」により文章を構成する情報が可視化されたため、根拠の適切さを考えたり、不十分な部分に気付いたりするなど、内容を十分に検討することができた。交流の場面でも、観点に基づき、根拠を明確にして書く生徒の姿が見られた。「記述メモ」を作成することで、中心的な部分と付加的な部分を意識することにつながり、文章の構成や論の展開に生かし、自分の考えが伝わる文章を書くことができた。

### 2 研究の課題

#### (1) 学習課題の工夫

生徒が興味をもち、各学年に適した学習課題は何か、各学年の発達段階に合った資料が十分にある学習課題は何かを検討し、設定することに、多くの議論を必要とした。また、共通の学習課題で、共通の資料で書かせると、「記述メモ」の内容も文章も似たようなものになってしまうことも、各学年の研究を深めていく上で課題になった。根拠を基に書くことに取り組ませる課題について、今後も検討していく必要がある。

#### (2) 「情報と情報との関係」を理解させる活動の設定

「情報と情報との関係」に関連する原因と結果、意見と根拠、具体と抽象などの関連する言葉を理解することに困難を感じる生徒も見られた。

根拠や表現の仕方の適切さを考えられるようにするためにも、理解させる活動をさらに充実させていく必要がある。

#### (3) 根拠や表現の仕方の適切さを考えさせる活動の設定

「記述メモ」を作成することはできても、根拠や表現の仕方の適切さを考えたり、説明や具体例を加えたりしながら、文章の構成を考えて書くことに困難を感じる生徒もいた。メモを作らせるだけでなく、「文章」にしやすいワークシートの工夫を考えていく必要がある。

平成 31 年度(2019 年度) 教育研究員名簿

中学校・国語

学 校 名	職 名	氏 名
文 京 区 立 第 六 中 学 校	主任教諭	上 野 義 博
台 東 区 立 駒 形 中 学 校	主任教諭	猪 俣 園 美
町 田 市 立 真 光 寺 中 学 校	主幹教諭	山 田 慎 一
東 久 留 米 市 立 西 中 学 校	教 諭	◎岩 崎 裕 真
西 東 京 市 立 柳 沢 中 学 校	主任教諭	◎中 屋 こづ絵

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部教育開発課  
指導主事 笠井 淳子

平成 31 年度 (2019 年度)  
教育研究員研究報告書  
中学校・国語

令和 2 年 3 月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課  
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号  
電話番号 (03) 5320-6849